

国際コンファレンス

「持続的・包摂的な成長に向けたアジア金融セクターの強化」

セッション1 「グローバルな金融規制改革 – アジアへのインプリケーション
と教訓」

東京市場におけるドルの流動性：ロンドン・ニューヨーク市場との比較と
アジアにおける金融政策へのインプリケーション

東京大学大学院経済学研究科
教授
福田慎一

概要

世界的金融危機では、国際金融市場が流動性不足と市場活動の突然の縮小によって影響を受けた。国際的な投資家は国際金融市場について極めて悲観的になり、不透明感が広がった。国際市場では決済のための米ドル需要が急速に増加し、多くの金融仲介機関では米ドルの流動性が不足。流動性不足は通貨市場に広がったのみならず、債券市場や銀行間短期金融市場にも影響を及ぼした。

本稿では、東京、ロンドン、ニューヨークの短期金融市場におけるドル不足の影響について述べる。世界的な金融危機の間、欧米の銀行の信用力は大幅に悪化したが、邦銀の信用力は悪化しなかった。もっとも、米ドルの流動性不足はロンドン市場やニューヨーク市場よりも東京市場の方が深刻であった。このことから、様々な市場では信用リスクと流動性リスクを区別することが重要であることがわかる。

我々の研究結果はアジアの銀行システムおよび為替市場にとっての教訓を伝えている。政策上の重要な教訓の1つがアジア地域における突然の流動性不足への対処方法である。本稿では、金融監督機関と中央銀行向けに、流動性不足への対処方法を提案する意向である。中央銀行の協調的な流動性供給が米ドル取引の流動性リスクの軽減に有用であったことを明らかにする。また、「チェンマイ・イニシアティブ」の多国間化がアジア域内でドル資金を互いに融通するセーフティネットとしての役割を果たすであろうことも提案する。